

令和6年度 第4回我孫子市商業観光まちづくり委員会（分科会4）
会議概要

1. 会議名称	令和6年度 第4回我孫子市商業観光まちづくり委員会 （分科会4）
2. 開催日時	令和6年10月2日（水）10：00～12：00
3. 開催場所	我孫子市役所 分館 「中会議室」
4. 出席者	<委員> 依田委員長、中澤委員、掘井委員、森住委員 <欠席者> 熊本委員 <事務局> 商業観光課 秋田課長 迫田課長補佐、大阿久係長、 輪島
5. 報告	特に報告すべき事項が無いため割愛
6. 議題	第1号 商業観光まちづくり事業の検討について
7. 配布資料	資料 我孫子市白樺芸術祭「過去と未来」 企画案 ※委員より配布
8. 公開・非公開	公開
9. 傍聴人	1名

会議の内容

会議の公開と傍聴について

我孫子市審議会等の会議の公開に関する規則と我孫子市商業観光まちづくり委員会傍聴要領（案）を事務局より説明した。我孫子市商業観光まちづくり委員会傍聴要領（案）については、異議なく原案通り可決した。

議題第1号 商業観光まちづくり事業の検討について

市制55周年に向けた商業観光まちづくり事業の検討を行った。

<事務局の説明>

市では市制55周年記念事業を官民間わず公募する予定である。採択された事業は市制55周年記念事業という名前の使用が認められ、広報あびこや市ホー

ムページを活用したPRが行われる。実施要領は秘書広報課で検討中。

<我孫子市白樺芸術祭「過去と未来」について>

委員より配布された資料 我孫子市白樺芸術祭「過去と未来」 企画案をもとに説明された。

<質問・意見>7:00~

(事務局) 課外での会議での検討経過を伺いたい。

(委員) これまで3回行った。費用の算出、場所の選定についてはディスカッションを通して集まりやすい場所、歴史のある場所を列挙した。誰を呼ぶかはアーティスト次第の部分もあるため、今後検討。

(委員) 有名アーティストとは白樺に関係する人か。

(委員) これから検討。我孫子に関わる方や、集客力のある人を呼びたい。

(委員) 我孫子市を理解したうえで作品づくりをしてもらう。キュレーターはなぜその作品がここにあるのかという説明をしてもらう。

(委員) アーティストたちが一つずつ作るのか。

(委員) 作るアーティストや作品による。

(委員) 作品が残るなら、その保管にかかる費用等も課題になる。残せるほうが55周年の記念品になって良いと思う。このイベントは継続していくものと考えているか。

(委員) 毎年でも5年周年ごとでも定期的に行いたい。

(委員) 毎年となると予算組が課題になる。予算案の中に委員による協賛金も含まれているが毎年拠出するのは大変だと思う。

(委員) 費用対効果が生れるのであれば問題ないと考えている。アーティストが我孫子に住むことにより、移住定住の促進や空き家対策といった地域の課題解決につなげたい。

(委員) 今後はこういった流れになるのか。

(事務局) この資料をもとに市の中で協議する。

(事務局) アーティストが住まうことにより移住定住の促進、空き家対策の解決につなげたい旨の話が合ったが、イベントの中で不動産の営業もしたいと考えているか。

(委員) 今のところ不動産として参加する予定はない。必要に応じて検討したい。

(事務局) 大学協賛で50万となっているが、実際可能なのだろうか。

(委員) 学内で調整している。

(委員) 補助金というのは国や県の補助金か？

(委員) 国や県のものを想定している。委員が使えるような補助金を模索している

(事務局) 市も予算要求していく。

(事務局) 市で白樺派カレー普及会に参加しているが、普及会が来年 20 周年で、何かやりたいと考えているため、ぜひ一緒に何かできると良い。

(委員) 普及会は実行委員会のメンバーの候補として考えても良いかもしれない。流れはこのまちづくり委員会で作れたので、予算含め、詳細は実行委員会を立ち上げて検討してもらいたい。

(事務局) 補助金は対象が限られているため、事前着手してしまった分の交付は不可な点に注意したい。また、役割分担を決めるうえで、人的リソースの確保は課題で、市も余裕がない。時期的な懸念もある。来年 5 月でご提案いただいているが、市が主導して実施しようとする、委託先の選定、入札準備等に時間がかかるため間に合わない。文化スポーツ課を始めとした他部署との調整も進める。実現に向けたフィッティング作業は事務局で行い、委員に対しフィードバックする。

(委員) 本件について、まちづくり委員会の他の委員への連絡は。

(事務局) 全大会は来年 5 月。書面開催も可能。

(委員) この案でまちづくり委員会として提案し、以降は実行委員会を構成して、具体的に進めるとしてよろしいか。

(委員) 全体的なスケジュール感を伺いたい。

(事務局) 市では経常費の要求が 10 月 17 日まで、政策費のエントリーが 11 月中旬にあり、その後何回か政策費のヒアリングを得て、採択の結果が 1 月に出る。その後、3 月議会に上程し、可決されて正式に決定となる。

(委員) 5 月の開催を前提とすると、出るか出ないかわからない市の予算は当てにできない。無いものとして考えて進めるべきだと考えている。

(事務局) 要求前から企画政策課や財政課に相談はしていく。最終決定はどうしても 3 月になってしまう。財政難の状況もあるため、約束はできないが、しっかり要求していく。

(委員) 市が 50 万負担金を出して、それがイベントを通して市にさらに大きな収入を生むという考え方はあるか。

(事務局) 花火でも大きな負担金を出しており、経済効果について尋ねられることが多い。花火大会を実施することで、負担金以上大きなお金が市に入っているであろうことは認識しているが、財政的な視点では、目に見える数字が判断基準になってしまう。

(委員) 目に見える収入があれば良いだろうか。

(事務局) 全ての事業に言えることだが、支出しかない事業よりも、歳入も見込める事業の方が、採択されやすい。

(委員) 例えばイベントの日の白樺文学館の入場料が 1,000 円になれば、それ

は市の収入になると思う。

(委員) 白樺派から生まれたものづくりの精神が商業者に伝搬してほしい。各お店が白樺派のメニューを提供するなど、イベントの期間は、公園坂周辺一帯の店等が、白樺派に染まると良いと考えている。商業観光課としてそういった取り組みがしたいから50万円を付けてほしいという、要求の仕方も考えられる。

(委員) 白樺派カレーはとても良い商材。売り方を考えればもっと良くなると思っている。

(委員) 企画案とは別に商業観光課の狙いをまとめたペーパーがあると、予算要求もしやすいと思う。アートでも食べ物でも、残っていくものを目指したい。

(委員) この会話の内容を他のまちづくり委員に共有し、できれば思いを共有した。

(事務局) 協力してもらおうというスタンスだと続かないように思う。参加してみて良かったと思ってもらえると続く。

(委員) 市の予算が出なかったとしても、進める前提で良いのか。次のステップとしてどういった動きが考えられるか。

(事務局) 5月の開催は必須か。芸術の秋として秋口はどうか。

(委員) 気候が良いからとりあえず設定している。空間づくりが大切。良い天気の日が良いイベントをやっていると記憶に残りやすい。秋ももちろん良い。

(事務局) この時期はいろいろなイベントがあり、それぞれを乗り越えるのが精いっぱいな状態。

(委員) 我孫子は秋も毎週イベントが行われている。

(委員) 企画案に景観推進室が所管しているアビコスを入れているが、白樺派をテーマにしたコスプレをしてほしいと考えている。そういった形で、白樺派を旗印に、関係課が参画してくれると良いと考えている。こういった考え方が浸透することで、部門を超えた参画が可能になると良い。

(事務局) 学生の参加はどのようなイメージか。

(委員) 中央学院大学の創作研究部の学生の代表と顧問の教員に内容を共有し、白樺派の文脈で作品を作ってほしいとお願いした。できないならワークショップになる。参加する側だけでなく、来場者としても学生をどう呼び込むかも考えている。

(委員) 5月か10月やるなら、いつ時点で何をやるべきか。

(事務局) 市の予算を前提にするのであれば、10月が濃厚。市の予算を前提にしないのであれば、場所さえ日程が合えばいつでもできる。市は予算化に向けて動く。

(委員) やるやらないの判断はいつできるか。

(事務局) 予算と場所、市内の調整をこれから行う。各イベントとのタイアップ

となると調整に時間がかかる。検討結果を委員に伝え、今後のスケジュール感を定める。